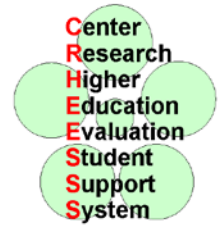


週刊センターニュース No.241



第241号(2009年1月13日) 毎週月曜日発行
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL：http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

〇〇〇 第210回共同学習会のご案内 〇〇〇

日時：1月20日(火) 16時30分～18時(曜日が通常と異なります)

会場：総合教育1号館2階大会議室

テーマ：「大学の命運を握る学生寮」

発表者：志村恵(人間社会研究域歴史言語文化学系)

概要：学生募集の観点からも留学生30万人計画の観点からも、学生寮のあり方が大学の魅力を左右する最も重要なポイントだといわれている。大学とコミュニティーを結ぶ「場」として(大東文化大学)、初年次全人教育の「場」として(昭和大学、豊田工業大学)、国際大学の顔として(立命館アジア太平洋大学)学生寮を活用している諸大学の実践例に学びつつ、金沢大学における寮の位置づけについて議論したい。寮問題に関心のある教職員・学生の参加を心から呼びかけます。

〇〇〇 第6回大学教育セミナーのご案内 〇〇〇

テーマ：「FD・ICT教育推進室が進めている学士課程教育の改革に伴うFD推進と教育実施・支援モデルの構築(最終報告)」

日時：2月14日(土) 13:00～17:45

会場：ホテル金沢ダイヤモンドルーム(金沢駅前)

主催：大学教育開発・支援センター

共催：総合メディア基盤センター、学生部 後援：大学コンソーシアム石川

〇〇〇 デジタルコンテンツ作成用スタジオの設置 〇〇〇

平成20年度政策課題対応経費事業「北陸地区国立大学連合における教育・研究資源の共有化と情報発信」(事業代表：元共通教育機構長・工学部 田中一郎教授)における基幹設備として総合教育2号館6階にデジタルコンテンツ作成用スタジオが完成した。本事業の実施母体は北陸地区国立大学協議会学生教育系専門委員会であり、参加大学から選出された委員からなる連携授業に関する研究会(デジタルコンテンツワーキング)がすでに立ち上げられ、コンテンツの内容の検討、スタジオの運営に関わる非常勤職員、TAの選定に着手している。現時点では、実験・実習や言語関連のコンテンツの開発と共通教育科目を中心とした授業への活用が想定されているが、文系、理系の広い分野でのコンテンツを組み込んだ授業の設計、大学間での連携授業の開発が期待される。

完成したスタジオの特徴は、実験・実習のデジタルコンテンツ作成を可能とするために、スタジオ内にドラフト(排気装置)や実験台が設置されている点である。総合教育2号館は共通教育の物理、

化学、生物、地学の学生実験室があり、コンテンツ作成時に必要な試薬や機器をスタジオへ搬入するのに都合がよい。

実験・実習におけるデジタルコンテンツの活用の利点は何であろうか？筆者は以前、工学部の国本浩喜教授がポータブルのビデオカメラで学生実験室の設備や基本実験操作を撮影したコンテンツを、学生実験の予習用として活用しておられることをホームページで知った。例えば化学実験では試薬の安全な取り扱いについては繰り返し学生に説明し注意を喚起したいところであるが、学生実験の開始前の説明に加え、自宅でデジタルコンテンツを用いて予習させることにより時間的制約を持つ学生実験の教育効果を高めることが期待できる。実際の実験・実習操作を内容とするデジタルコンテンツの活用は e-Learning の特質を最大限に生かすものといえるであろう。

筆者もこのスタジオでコンテンツを作成し、担当する共通教育科目「細胞と化学反応」や「初学者発展ゼミ」で活用することを予定している。「細胞と化学反応」では文系学生を念頭においた授業の組み立てを試みているが、以前より演示実験を授業に組み込みたいと考えていた。文系学生を対象とする場合、生の現象を見せて興味を喚起するとともに実験操作を見せることによって理系の分野について肌で感じてもらうことも重要であると思う。実験操作の部分をデジタルコンテンツ化し、WebClass で授業時間外に視聴させることを計画している。

実験・実習のコンテンツ作成には物理、化学、生物、地学など広い専門分野の教員の参加を是非お願いしたい。スタジオ内に常備する実験器具・機器等については今後の参加者の要望に応じて整備されることになるであろう。化学については汎用的なガラス器具などはすでに準備されつつある。また、位相差顕微鏡、低温インキュベーター、簡易型無菌箱、オートクレーブ、電子天秤、恒温槽、スターラーなど汎用機器類が使用可能である。

本事業では参加大学での授業開発に加え、理化学実験のコンテンツ作成については小・中・高等学校での授業にも提供できるものが想定されている。このような幅広いニーズに応えるためには多くの教員の参加と実験・実習の素材についてのアイデアの提供が必要になる。また、卒業論文、修士論文及び博士論文の発表用プレゼンテーションの一部としてのデジタルコンテンツの活用も想定されている。実験スタジオという本設備の特徴を生かした活用を期待したい。

(文責 大学教育研究開発部門 西山宣昭)

○●○ 新着図書・資料の紹介 ○●○

大学教育開発・支援センター図書室(総合教育1号館南棟6階 613号室)に、授業技術・方法に関するものを中心に、以下の図書が入りました。貸出・閲覧が可能ですので、是非ご活用下さい。

- ・「プロの技術」を学ぶ(全6巻) / 明治図書、2007年
 - 1 子どもの見方・とらえ方 西村一夫 編著
 - 2 教材解釈・教材提示の仕方 柏木英樹・山川直樹 編著 / T O S S 淡路キッツキ
 - 3 発問構成・発問の仕方 河田孝文 編著 4 板書構成・板書の仕方 平松 孝治郎 編著
 - 5 発言の取り上げ方 長谷博文 編著 / いなば教育サークル 著
 - 6 個と集団をかかわらせる技 水野正司 編 / T O S S 北海道 著
- ・図解 先生のためのコーチングハンドブック / 神谷和宏著、明治図書、2007年(7版)
- ・21世紀の授業 授業分析の基礎技術 (ネットワーク双書) / 上條 晴夫・上条 晴夫・藤川 大祐 著、学事出版、2002年